

小中一貫教育だより

〔中1ギャップ検討委員会〕

vol.04 令和3年1月

発行：北陵地区

小中一貫担当

【3校の教育目標】夢や目標の実現を目指し、たくましく生きる北小樽の児童・生徒の育成

中1ギャップ問題未然防止事業 運営協議会

1月14日に、中1ギャップ問題未然防止事業 運営協議会をかねて、第4回小中一貫教育推進委員会を行いました。今回は、小樽市教育委員会と後志教育局をZoomでつなぎ、手宮中央小学校の6年生の英語の授業を公開しました。その後の協議会では、中1ギャップ問題の軽減のために重要なポイントとして、2点の指摘がありました。特に「9年間の教育課程の編成」については、学園制加配活用事業の目的と重なる部分が多く、次年度に向けての大きな宿題だと言えます。

中1ギャップ軽減の2つのポイント

- ▶ 9年間の教育課程の編成
- ▶ 不登校児童生徒への適切な支援

～会議録から～

●教育課程部会 (部長) 吉田先生 (副部長) 藪田先生 (担当) 庄司教頭

①学園制 合同授業の授業内容について

- ・ 両校ともに美術(図工)の授業を行う。高島小は1月25日、手宮中央小は2月1日
- ・ 1・2時間目～5年生, 3・4時間目～6年生 特別支援の児童は、実態に応じて参加
- ・ 交流の仕方は、「作品を交換して子ども間で評価しあう」⇒「動画で中学校教員から解説」で確認

②33SKILLについて

北陵の33SKILLをもとにした各小学校の「28SKILL」と突き合わせ、共通している項目をピックアップし、9年間の定量的な見取りにつなげることとする。

③9年間の教育課程 中学校の中島先生と高橋あすか先生が原案を作成する

●学力向上部会 (部長) 青柳先生 (副部長) 平口山先生 (担当) 植松教頭

①家庭学習強化週間

- ・ 3学期は、6年生のみを対象とし、中学校のテスト期間に合わせて2週間実施する。家庭学習教科の取組を各校で継続する。

②算数・数学版のCAN-DOリストを作成

- ・ 中学校では知識・理解に課題が見られる。[数と計算]領域の四則計算にしぼって、どこでつまづいているかを見取るために、6学年分をリスト化する。

●生徒指導部会 (部長) 田中先生 (副部長) 白濱先生 (担当) 蕪澤教頭

①不登校の児童への支援 家庭訪問の実施, 家庭の状況により連絡が付きにくいケースあり

②高学年で、学習に向き合う環境が少しずつ整ってきている。小学校で休み時間が5分間しかなく生活リズムを整えることが難しい児童もいる。

③中学校では、人に迷惑をかけないという共通の基準で自分の行動を律するよう指導を継続している